

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

(1) 河川空間の利用状況

小丸川の年間河川空間利用者総数（推計）は、約21万人である。沿川市町村人口から見た年間平均利用回数は7.4回/人となっており、全国でもトップクラスである。

利用形態別では、散策等が72%と最も多く、次いでスポーツ12%、釣り8%、水遊び8%の順になっている。今年度の傾向を平成9年度と比較すると、約27万人程度の利用者数の増加となった。これは少年サッカークラブなどのグラウンド利用が頻繁であること、年輩の方によるグラウンドゴルフの利用が盛んであることなどがあげられる。

利用場所別では、堤防45%、高水敷39%、水際10%、水面6%の順となっている。

沿川市町村人口から見た年間平均利用者数が7回/人と多いことから、沿川の人々がこの小丸川を生活の一部の場としてよく利用していることが伺える。

表7-1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	48	31		
	釣り	31	25		
	水遊び	8	16		
	散策等	96	138		
	合計	183	210		
利用場所別	水面	7	11		
	水際	32	30		
	高水敷	77	64		
	堤防	67	105		
	合計	183	210		

出典：河川水辺の国勢調査 平成15年度 河川空間利用実態調査(小丸川) 報告書より

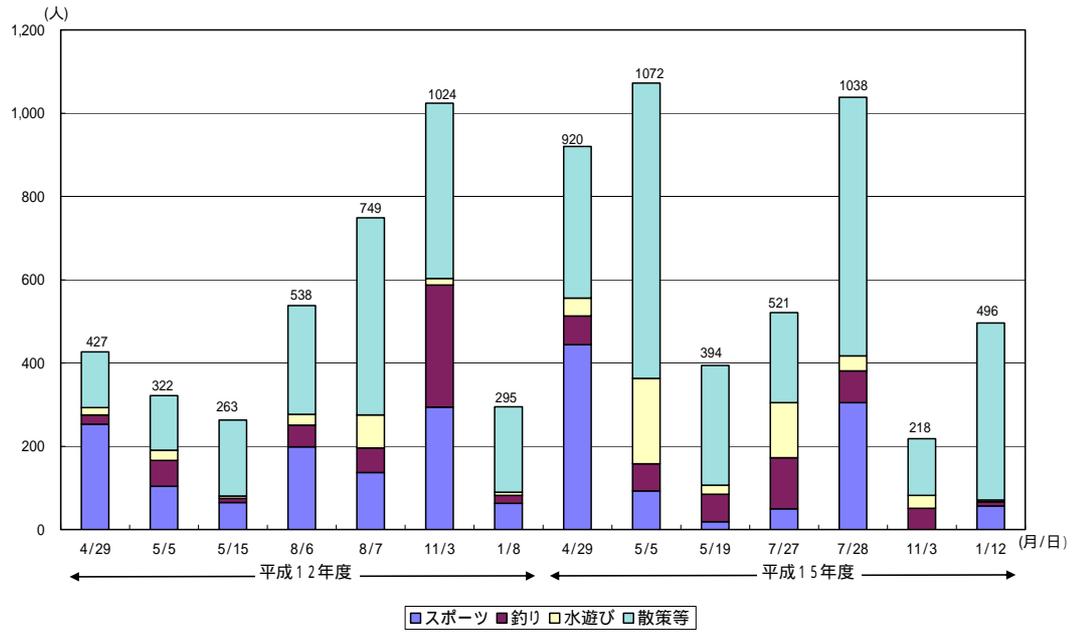


図 7-1 各調査日の利用者数

(2) 空間利用の概況

小丸川上流部

小丸川上流では、川原ダム、松尾ダム、渡川ダムの湖内でコイ・ヘラブナ釣りを、鬼神野地区では秋にヤマメ釣りを楽しむ人が多い。また、小丸川本川沿いに鬼神野溶岩溪谷キャンプ場、支川板谷川いまたにに祇園の滝キャンプ場、渡川に渡川地区運動公園等が整備され地域の人々に利用されている。

川原自然公園は、昭和 46 年に自然とのふれあい施設として開園し、県内でも規模の大きなキャンプ場として小・中・高校生の教育キャンプや、家族連れなどの愛好者の利用がおこなわれている。

平成 4 年度から平成 9 年度にかけ様々な事業を導入し、尾鈴県立自然公園内の地域性と自然環境を最大限に保全しながら、コテージ、河川プール、園内プール、カヌー施設等の整備が進められた。現在では、「親子ふれあいカヌー教室」や、「わんぱく体験教室」等の体験ができるほか、8 月には「カヌーフェスタ」も開かれ、大人から子供まで楽しめるイベントが行われている。

【川原自然公園利用状況】

年度	年間利用者数
平成14年度	39,122人
平成15年度	39,070人
平成16年度	40,880人
平成17年度	30,521人
平成18年度	19,443人



【川原自然公園カヌー体験状況】

(写真：国土交通省
宮崎河川国道事務所)

小丸川中流部・下流部

小丸川における河川敷の整備箇所とその利用状況は、高鍋周辺の下流地区において4地区が整備され、サッカーやラグビーなどのクラブ活動、ゲートボールなどのスポーツのほか、遠足やピクニックなどのレクリエーションに広く利用されている。また、堤防や河川敷をジョギングや散歩等で、多くの人々が日常的に利用している。

また、小丸川河口部の入り江や河跡湖をはじめとする豊かな自然環境が存在することから、最近ではNPOや地域住民の人々が自然観察の場として利用している。

表 7-2 高水敷の利用状況

位置	利用状況
左岸 1/050 ~ 1/800	スポーツ広場として位置づけられており、ソフトボール、サッカー等の利用者が多い。
右岸 2/700 ~ 3/200	スポーツの広場として整地されており、ゲートボール等に利用されている。
右岸 4/600 ~ 5/400	部分的にはゲートボール場および野球場として整備されており、利用者も比較的多い。
左岸 9/200 ~ 10/000	スポーツ広場として位置づけられ、サッカー等の利用が見られる。コミュニティ助成事業により移動式バックネット、簡易トイレ、着脱式防護フェンス等が設置されている。

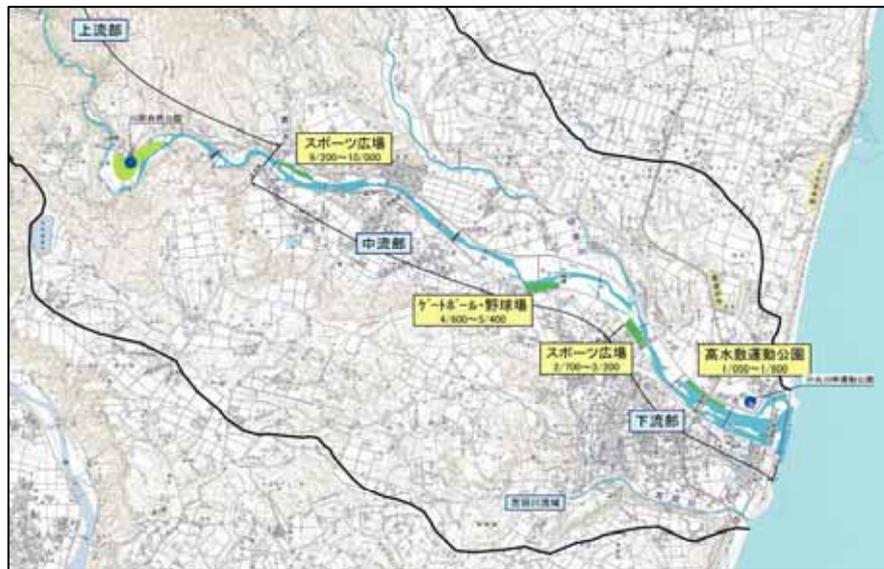


図 7-2 小丸川河川環境整備箇所位置図



スポーツ広場(右岸:2/700～3/200)

(写真:国土交通省
宮崎河川国道事務所)



ゲートボール場・野球場(右岸4/600～5/400)

(写真:国土交通省
宮崎河川国道事務所)



スポーツ広場(左岸9/200～10/000)

(写真:国土交通省
宮崎河川国道事務所)

【河川敷地公園利用状況(年間利用者数)】

年度	スポーツ広場	ゲートボール・野球場
平成15年度	24,185人	高鍋町サッカースポーツ少年団が、週3回練習等に使用している。年間延べ4000人～5000人が利用している。
平成16年度	22,820人	
平成17年度	28,447人	
平成18年度	17,036人	

宮田川

宮田川には河川敷はなく、周辺住民が堤防沿いの一部を通勤・通学、ジョギングや散歩等に利用している。